

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	カンボジア王国
2. 事業名	コンポントム小学校教員養成校（PTTC）における学生に対する指導力向上支援事業
3. 事業の背景と必要性	カンボジアではポル・ポト政権崩壊後、学校建設や教員増強といった量の面では再興しつつあるものの、教育の質はまだまだ低い水準にとどまっている。これを改善するため、教育省は生徒中心の問題解決型学習・IBLの導入を推進しているが、教員養成校においても教員中心の授業が行われているのが現状である。コンポントム州小学校教員養成校においても、指導教員のIBLに関する知識は豊富だが、IBL導入の意義が理解できていないため、十分に授業に活かされていない。また、IBL授業の実践経験が少ない、学校にIBLを推進するための体制が整っていない等の課題を抱えている。児童の理解度を上げ、成績を向上させるためには、教員養成校教員の意識改革や指導力の向上、学校の運営管理体制の改善に対する支援が必要である。
4. プロジェクト目標	PTTCにおける学生のIBLの理解力向上
5. 対象地域	カンボジア王国コンポントム州
6. 対象地域を管轄する在外公館（大使館、領事館、領事事務所）	在カンボジア日本国大使館
7. 受益者層（ターゲットグループ）	コンポントム州小学校教員養成校（PTTC）学生及び指導教員
8. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> PTTC指導教員がIBL手法で指導する実践能力が上がる PTTCで学生のIBL実践能力向上を目的とした指導の手引きとしての教員用の学習指導案集が整う PTTCにおいてIBLを推進し、教員の学生に対する指導力を向上させるための運営・管理体制を改善・強化する <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> PTTC内にコア教員とコンポントム州教育局を中心としたIBL推進のためのFD（Faculty Development）委員会を立ち上げ、それに携わる教員を決定する。 FD委員会が教員のIBL実践のためのガイドラインを作成する。 PTTC指導教員が定期的にガイドラインに基づき相互チェックを実施する。 FD委員会が授業研究会（指導案検討会、事前授業・反省会、本授業・反省会）の実施計画を作成する。 授業研究会を実施する。 授業研究会の本授業を専門家が見学し、評価する。 授業研究会の活動報告書をKICに提出する。 コア教員が訪日し、IBL実践のための研修を受ける。 訪日時にコア教員が神戸市内小学校（IBLの拠点校）及び小学校教員養成大学を訪問し、神戸市小学校教員や専門家と意見交換をする。 コア教員が訪日研修の学びを他の教員に共有するための研修を実施する。 PTTC学生による授業を神戸市外大チーム（専門家・学生）がフィードバックする（相互に作成したビデオレターを送付する）。 コア教員がPTTC卒業生のフォローアップのため、赴任先小学校を訪問する。また、卒業生の現場での育成担当者からのフィードバックを得る。 FD委員会が、教師手引き書としての学習指導案を作成する。 専門家が学習指導案を確認し、FD委員会に対してフィードバックを行う。 専門家のフィードバックに基づき、FD委員会が学習指導案を改善する。 FD委員会にて、学習指導案を指導教員と共有し、授業で実践する。 FD委員会が原則として毎月1回定例会を開催し、議事録をKIC/神戸市外国語大学に提出する。また、FD委員会がコア教員以外の指導教員への連絡会を開催する。 PTTCの学校管理者が、訪日研修でIBL手法に基づいた教員の評価手法や運営方法を学ぶ。 PTTCの学校管理者は（が指導教員の評価に、）IBL手法に基づいた授業評価を理解し、PTTCの実情を踏まえた評価制度を確立する。 PTTCの学校管理者が、訪日研修で学校管理について学ぶ（神戸大学等）。
9. 実施期間	2022年4月～2025年4月（3年間）
10. 事業費概算額	65,980千円
11. 日本側実施機関	公益財団法人神戸国際協力交流センター、神戸市外国語大学、神戸市教育委員会
12. 相手国側実施機関	コンポントム州小学校教員養成校（PTTC）
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体名）	公益財団法人神戸国際協力交流センター（神戸市）
2. 活動内容	2018年4月～神戸市教員OBをコンポントム州小学校教員養成校へ派遣